

# 学会大会参加断念の理由とその支援に関するアンケートの詳細解析

2021年1月18日～1月31日まで実施

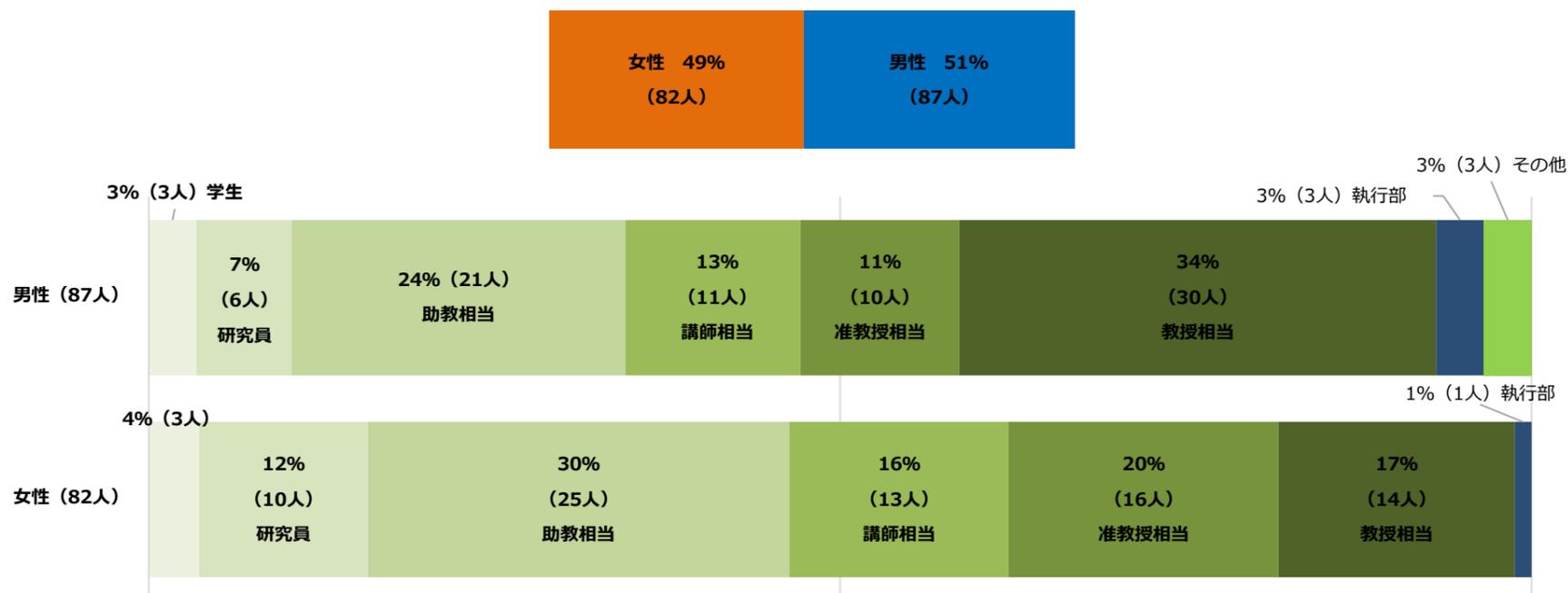
## 結果の概要

- 回答数：169名（うち男性87名、女性82名、学生から教授相当職まで含まれた）。
- 男性の62%、女性の79%が「これまでに家庭や所属機関に関する理由で学会参加を断念したことがある」と回答した。断念理由は、男性では育児、教育、大学の運営事業と同程度（それぞれ約30%）であったが、女性では育児と答えたものが65%と圧倒的に多かった。
- 学会参加断念理由の「育児」の割合について職位別に解析した結果、男性では職位が上がるにつれ育児の占める割合が減少するが、女性では准教授まではどの職位でも育児の占める割合が高く（67%以上）、特に助教相当で最も高かった（79%）。
- 育児によって学会参加を断念したことのある女性の61%（31名）、男性の47%（9名）が、学会会場内での託児支援以外に経済的支援があるならば利用したいと回答した。一方、金銭以外の支援としては、Web開催方法の充実やオンデマンド配信を求める声が一番多く、次に小学生以上の居場所作りや小中学生用のファミリー会員制度の導入、病児保育などが挙げられた。
- 科研費による託児料支出の認知度は、男性の74%、女性の55%が「知らなかった」という結果であった。
- 介護が理由で学会参加を断念したことがあると回答した人は6名（女性4名、男性2名）であった。
- 介護を理由とした人のうち3名は、介護に関する経済的支援があるならば利用したいと回答した。1名からは家事代行サービスの利用のため5万円程度の支援を希望された。しかし、「学会からどのような支援があれば参加が可能となったと思いますか」という問いに対し「いずれにせよ参加が困難である」と回答した人は5名に及んだ。

## 結論

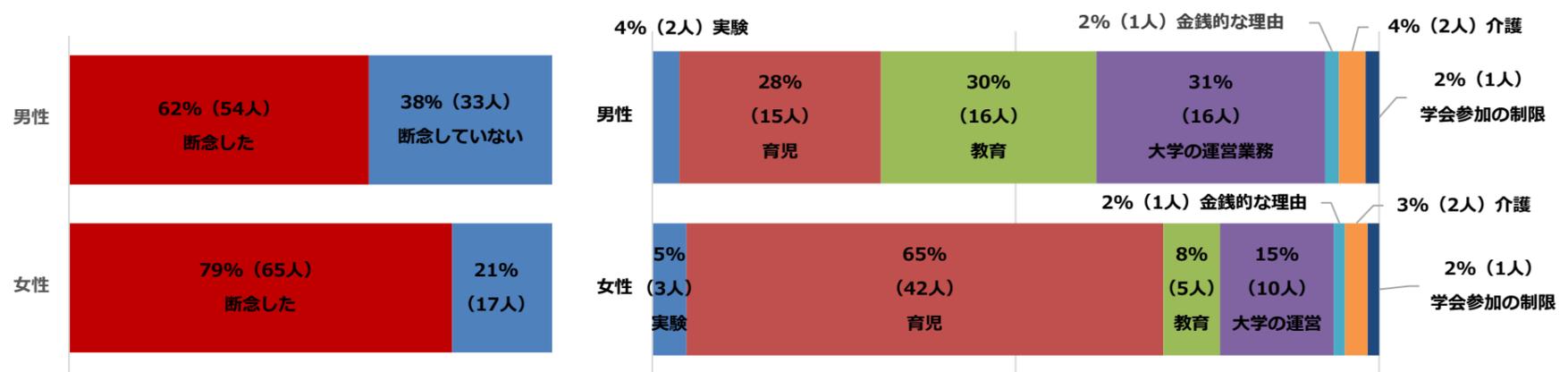
- 学会参加のための支援は、特に育児中の研究者に必要とされ、若手、女性に対して最も有効であると考えられる。育児によって学会参加を断念したことのある女性の61%、男性の47%が、学会中の託児所以外の育児支援として、経済的支援があった場合に今後利用したいと回答している
- 金銭的支援の他には、学会大会のWeb開催（併用も含む）や小中高生の居場所づくりなどの支援があげられた。
- 介護で学会参加を断念した研究者数は少ないが、その研究者への支援については、情報の提供や共有やなど金銭以外の支援を主に検討していく必要があると考えられる。
- 科研費による託児料支出の認知度が思ったより低かったので、学会からも認知度を高めるアクションが必要である。また、学会中の小中高生の居場所を3年前から設置しているが、周知されていないことから、こちらも周知活動が必要である。

## 1. 回答者数と役職



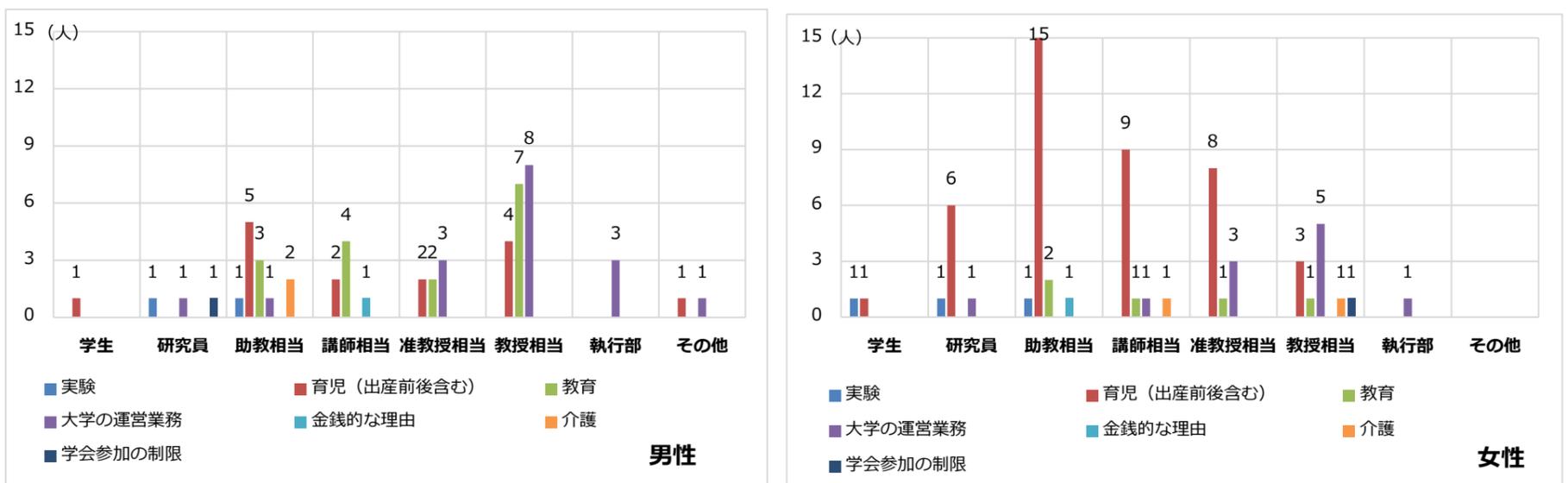
総回答者数169人、このうち男性回答者は87人（51%）、女性82人（49%）で、その割合はほぼ同じだった。男性の回答者で一番多い役職は教授相当（34%）で、女性は助教相当（30%）だった。准教授以上の職位は男性は48%、女性は38%となり、男性のほうが上位職の割合が高かった。尚、その他は非常勤のみの記載者、勤務医、技術者（それぞれ1名づつ）である。

## 2. 男女別学会参加の断念の割合（左図）と断念した第1理由（右図）



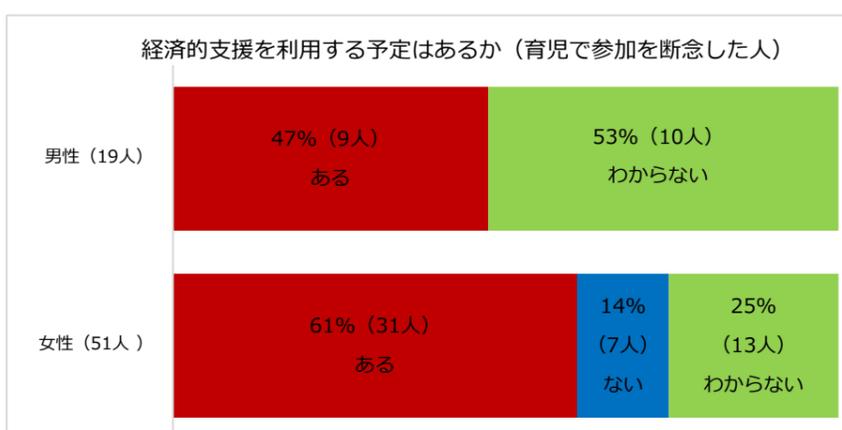
「これまでに家庭や所属機関に関する理由で学会参加を断念したことがある」と回答した男性の割合は62%、女性では79%だった（右図）。

学会参加を断念した第1理由として男性は育児、教育、大学の運営事業と回答した割合が、それぞれ約30%であったのに対し、女性では育児と回答した割合が65%と圧倒的に多かった。



男女別および職位別の学会参加断念の理由では男性では職位が上がるにつれ、育児が占める割合が減少するが、女性では准教授まではどの職位でも育児が占める割合が高く、特に助教相当で育児によって学会参加を断念したのことが多いことが分かる。したがって育児支援は若手、特に女性に対する学会参加支援では重要であることが分かる。介護を学会参加断念理由の第1理由としたものは男女ともに2人で、第2理由に挙げたものは2名（ともに女性）だった。

## 3. 学会参加のための支援



育児によって学会参加を断念したことがあると回答した女性の61%、同じく男性の47%は、大会中の託児支援の他に、育児や介護に関する経済的支援があった場合に、今後利用する予定であると回答した（全体では37.3%が利用すると回答）。

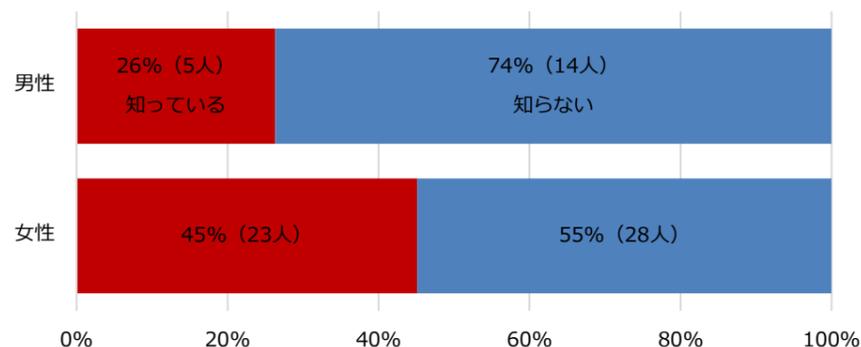
しかしながら、大会参加を断念した女性のうち経済的支援を利用したいと答えたものの、「問7 学会からどのような支援があれば参加が可能となりましたか」と回答した人は、67%（20名）（男性は1名）だった。その理由としては、「産休、育休中は科研費の使用が出来ず、web開催でも参加費が支払えず、参加できなかった」「子供を連れての学会参加は荷物の多さや、子供の面倒を見ながらの移動なの

で、自分一人では手が足りない：2名」「託児所に預ける予定の子供が病気になった」「小学生は学校を休ませることになるため」などが挙げられていた。

これらの人たちの、「学会からどのような支援があったら参加が可能になりますか（問9）」の自由記述回答では、「Web開催方法の充実、オンデマンド配信の期間を長くする等：5名」「小学生以上の子供の居場所づくり（例：サイエンスイベントの充実、学習見守りサービスなど）：3名」「小中学生用のファミリー会員制度の導入」「子連れで参加しやすい雰囲気づくり」「懇親会への子供の参加」「長期休暇（春休み中）の大会開催」「病児保育：2名」が挙げられていた。

次に介護によって大会参加を断念した6人のうち（第1、第2理由で介護と回答した人。女性4名、男性2名）、大会中に育児や介護に関する経済的支援があった場合に、今後利用すると答えた人は3名だった。しかし、「問8 学会からどのような支援があれば参加可能となりましたか」に対して、いずれにせよ参加が困難であると回答した人は5名、5万円程度の金銭的支援が1名だった。ちなみに、金銭的支援を望んだ人は、第98回大会参加のために家事代行サービス（2～5万円未満）を利用すると回答していた。

#### 4. 科研費による託児料支出の認知度



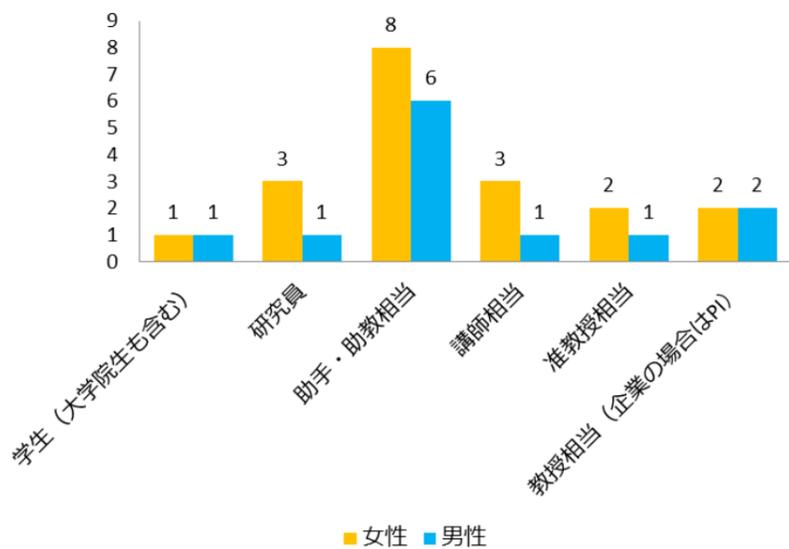
科研費の直接経費で託児料が支出できることを知っている割合は全体で33%と非常に低かった。上図は学会参加を断念した第1、第2理由を育児と答えた男女で、科研費の託児料支出に関する認知度を解析した。その結果、男性では26%と大変低く、女性では45%と半分にも満たないことが分かった。

#### <第98回日本生理学会大会（解剖学会との合同大会）でのライフイベント支援策>

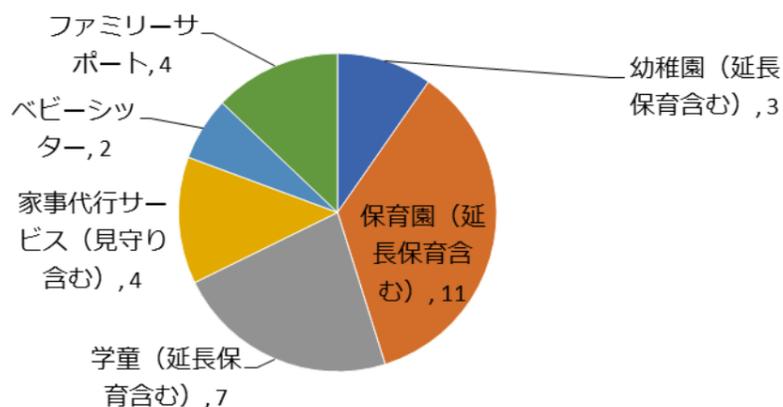
アンケート結果から、大会参加のための経済的支援があるならば利用したいと回答した人は過去に育児で参加を断念した70名のうち40名（女性31名、男性9名）であった。第98回大会の参加にあたり、ベビーシッターや延長保育などの託児を独自に利用する予定者は回答者169名中31名（女性19名、男性12名）で、うち20名が経済的支援を利用したいと回答した。支援利用希望者の役職は助手・助教相当および講師が一番多く10名（女性6名、男性4名）で、かつ費用も大きい傾向にあった。また、この託児料に対応可能な研究費・補助費を有するのは31名中5名であった。予定金額は1万5千円未満が20名（64%）であった。

そこで支援策として、1万5千円を上限に、希望金額に応じて3000円、5000円、1万円、1万5千円を支給することが大会参加促進策として有効であると考えた。

問2 あなたの役職名を教えてください。（問10回答者 計31名）



問10 第98回日本生理学会大会（2021年3月28日（日）-3月30日（火））web開催に参加するに当たり、下記のようなサービスを臨時で利用する予定はありますか。複数ある場合は最も費用が大きいものを選んでください。（計31名）



問11 問10のサービスを利用するにあたり、臨時出費はどの程度になりますか。

